



2018年3月期第3四半期 補足説明資料

株式会社 F F R I (東証マザーズ : 3692)
<http://www.ffri.jp>



会社概要

会社概要

会社名： 株式会社 F F R I (FFRI, Inc.)

所在地： 東京都渋谷区恵比寿1-18-18 東急不動産恵比寿ビル4階

役員： 代表取締役社長 鵜飼 裕司
取締役最高技術責任者 金居 良治
取締役最高財務責任者 田中 重樹
社外取締役（監査等委員） 下吹越 一孝
社外取締役（監査等委員） 高橋 郁夫
社外取締役（監査等委員） 松本 勉

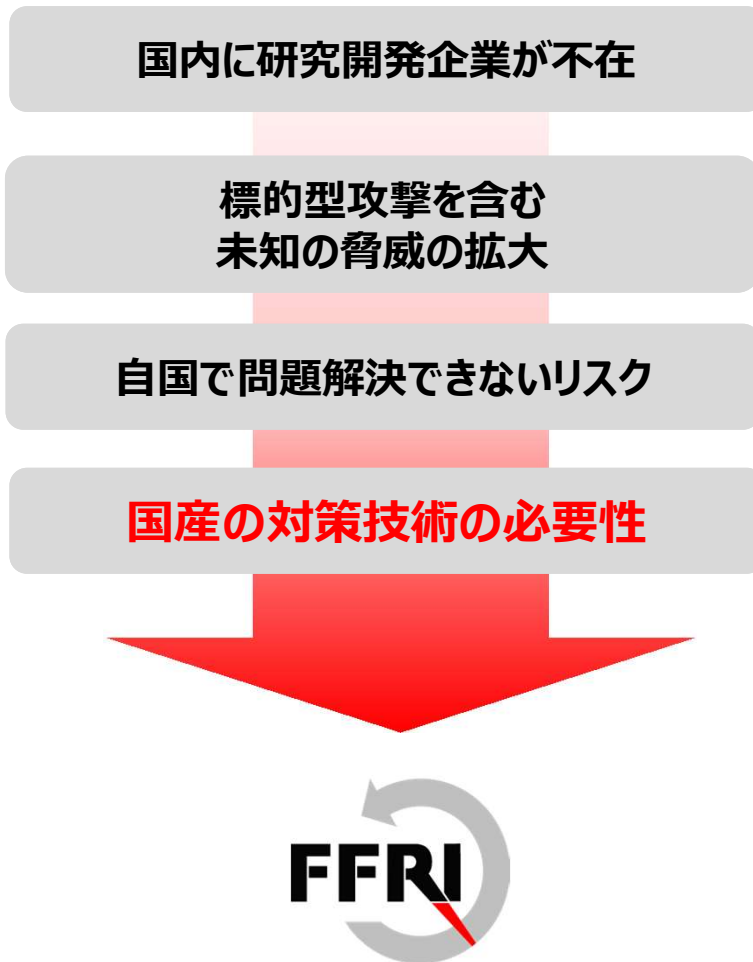
設立： 2007年7月3日

資本金： 285,698,500円（2018年1月31日現在）

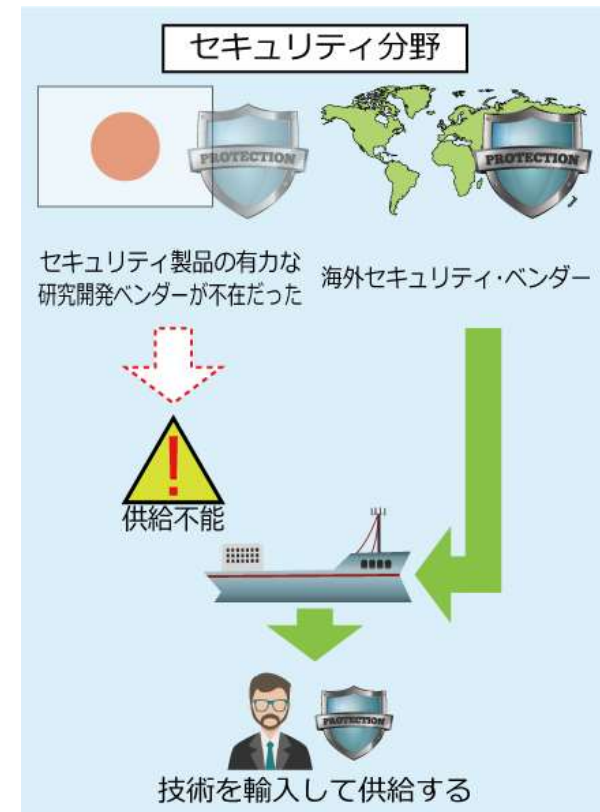
事業内容： 1. コンピュータセキュリティ研究、コンサルティング
2. ネットワークシステムの研究、コンサルティング、情報提供、教育
3. コンピュータソフトウェア及びコンピュータプログラムの企画、開発、販売、リース、保守、管理、運営及びこれらに関する著作権、出版権、特許権、実用新案権、商標権、意匠権等の財産権取得、譲渡、貸与及び管理
4. 上記事業に関連する一切の業務

2014年9月30日 東証マザーズ上場

設立の経緯



□ これまで日本は対策技術を海外からの輸入に頼っていた





社名とコーポレートマークに込めた思い

- 「FFRI」は、「**F**ourteen**f**orty **R**esearch **I**nstitute」の略称
- 「1440」は、スノーボード・ハーフパイプ競技におけるジャンプの回転数に由来
- 設立当時、4回転ジャンプできる競技者が存在せず、前人未到の領域への挑戦を志し、「1440（360°×4回転）」を社名に採用

Fourteenforty Research Institute



FFRI

コーポレートマークにも「1440」の文字とスノーボードの回転をイメージした矢印で、設立当初から変わらない「未踏の分野への挑戦」を表現



コーポレートマーク

世界トップレベルのセキュリティ・リサーチ・チームを作り、
コンピュータ社会の健全な運営に寄与する



業績説明

業績サマリー

- 売上高：主力製品のFFRI yaraiの売上は前年同期比38.1%増
 個人向け製品、セキュリティ・サービスの売上の好調により、第3四半期では
 当初計画に対して上振れして推移

(単位：百万円)

区分	2017/3 3Q (単体)	2018/3 3Q (連結)	増減比 (%)
売上高	1,008	1,199	18.9
営業利益 (利益率：%)	162 (16.1)	202 (16.9)	24.5
経常利益 (利益率：%)	163 (16.2)	202 (16.9)	24.3
親会社株主に帰属する四半 期純利益/四半期純利益 (利益率：%)	149 (14.8)	177 (14.8)	19.2

(注) 当社は、2017年4月3日に初めての連結子会社となるFFRI North America, Inc. を設立しております。
 このため、2017/3 3Qは単体の業績数値、2018/3 3Qは連結の業績数値を記載しております。

業績サマリー（売上の内訳）

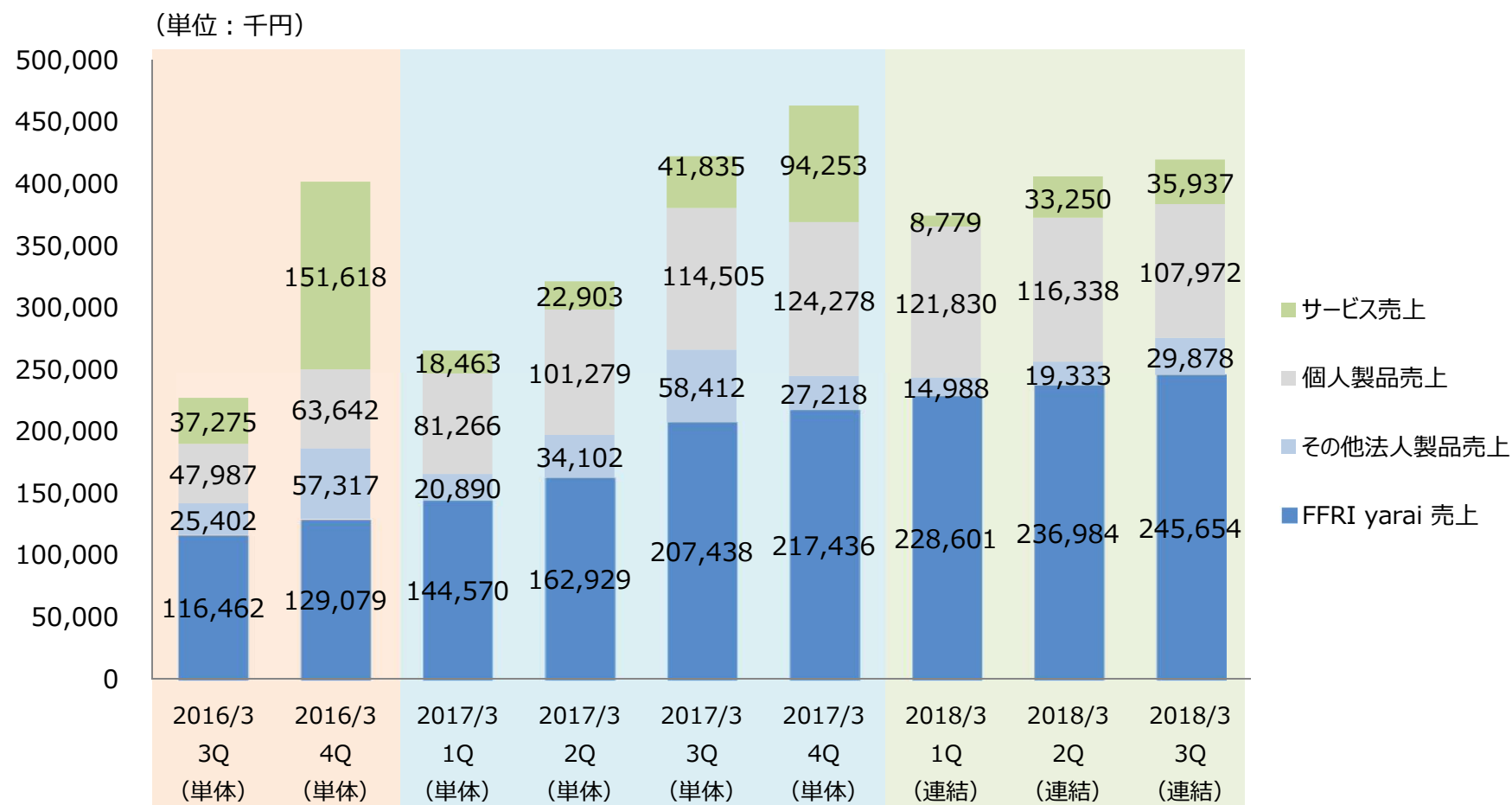
（単位：百万円）

区分		2017/3 3Q (単体)	2018/3 3Q (連結)	増減比 (%)	
国内	法人	製品	628	773	23.1
		サービス	83	77	△6.3
	個人		297	346	16.5
	小計		1,008	1,197	18.8
海外	法人	製品	-	1	-
合計		1,008	1,199	18.9	

（注）当社は、2017年4月3日に初めての連結子会社となる
FFRI North America, Inc. を設立しております。
このため、2017/3 3Qは単体の業績数値、2018/3 3Qは連結の業績数値を
記載しております。

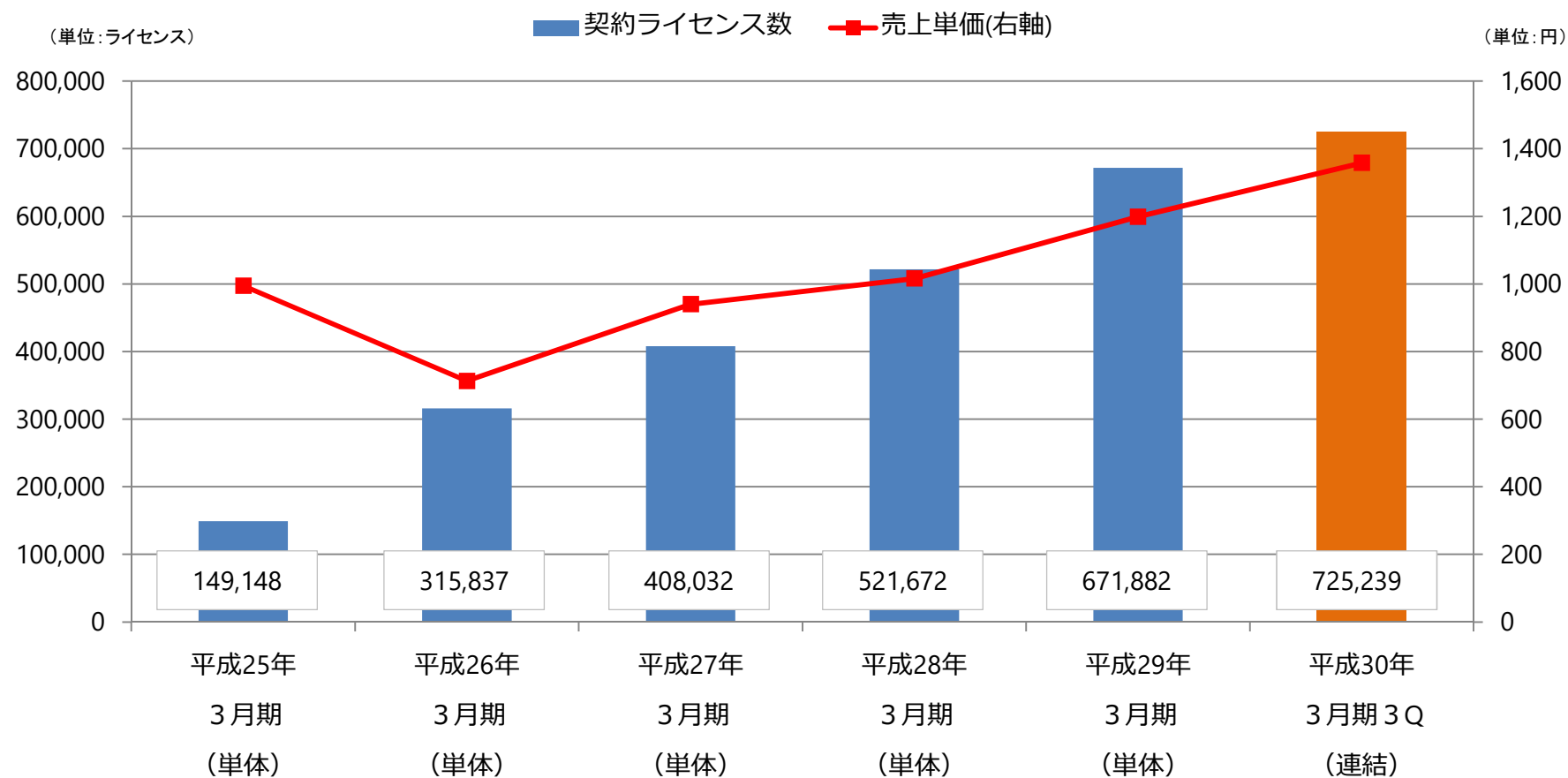
- 法人製品：主にFFRI yarai の販売増加。
引き続き官公庁及び金融業での導入が増加。
重要インフラ指定業種の中でも対策実施に
温度差が生じている。
- 個人製品：Android端末向け「FFRI安心
アプリチェッカー」の継続利用者が想定より上
振れして推移。
- 海外
ユーザーによる製品評価で高評価をいただけ
るものの、認知度の低さに起因する商談の案
件化に課題。

区分別四半期会計期間毎の売上推移



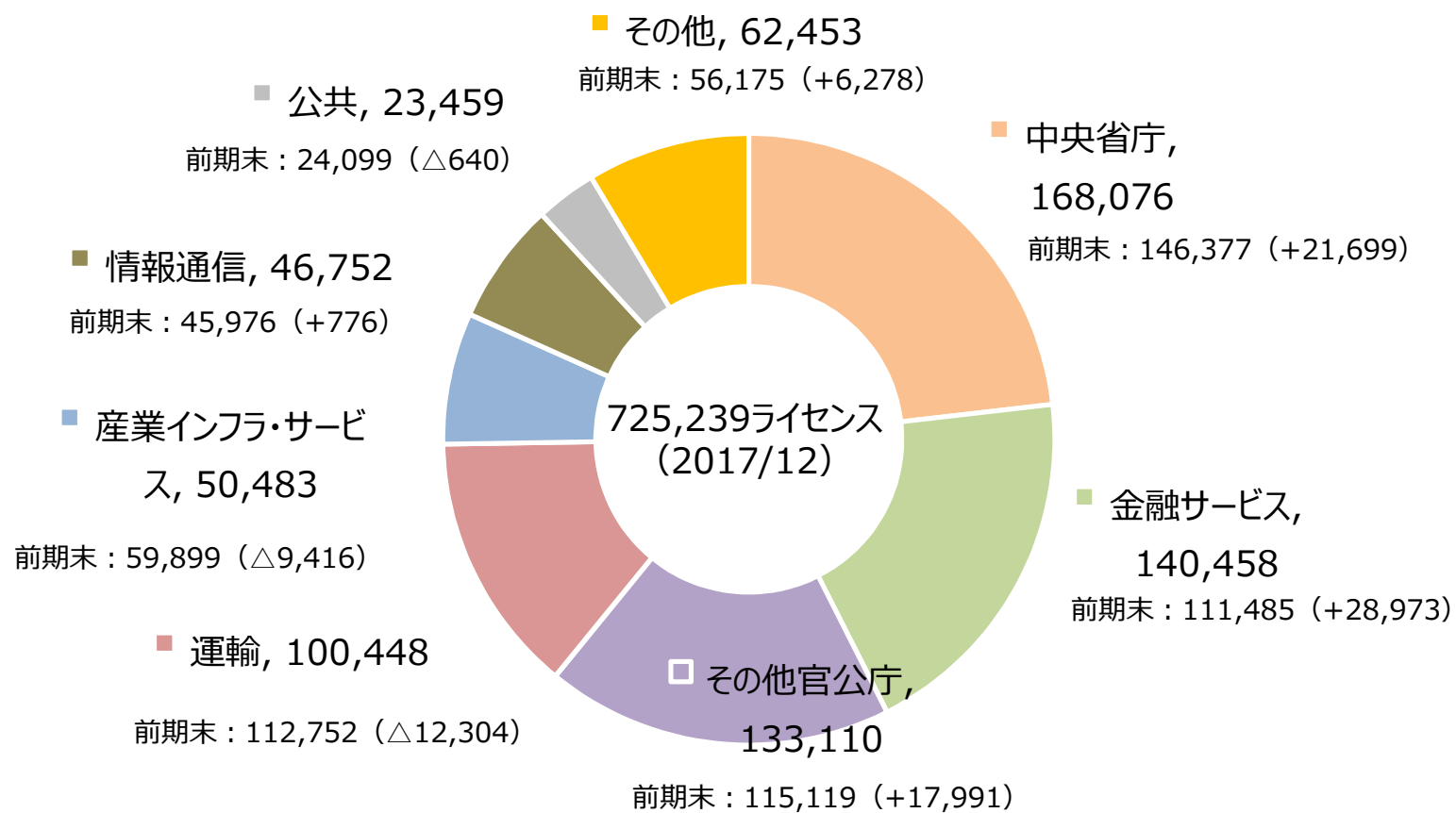
契約ライセンス数及び売上単価の推移

FFRI yaraiシリーズ



業種別契約ライセンス数

FFRI yaraiシリーズ



原価及び販管費の内訳

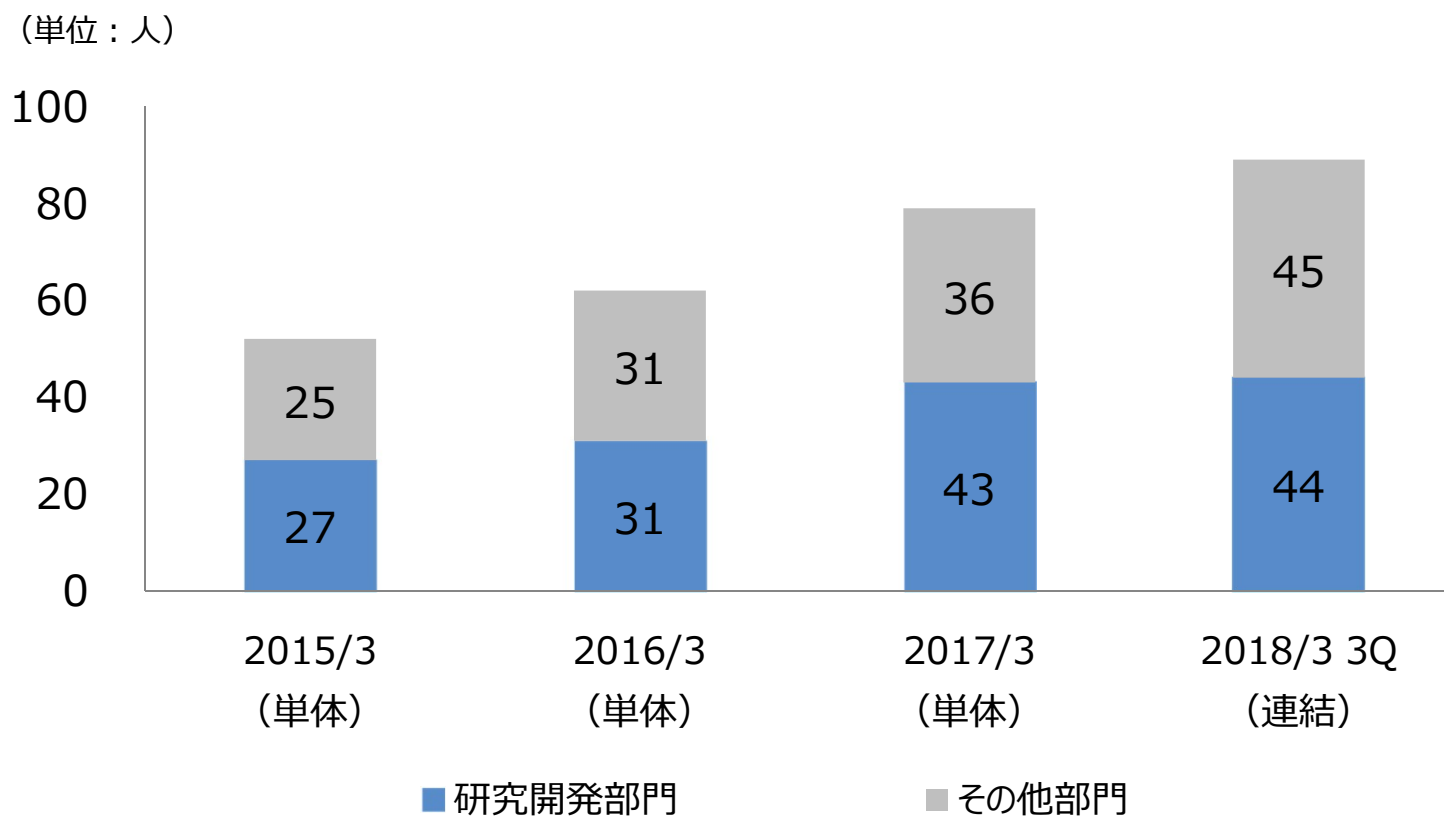
(単位：百万円)

費用の種類	2017/3 3Q (単体)	2018/3 3Q (連結)	増減比 (%)
労務費	161	200	24.5
経費	68	65	△4.7
期首・期末棚卸及び 他勘定振替			
研究開発費への振替	△82	△76	－
ソフトウェアへの振替	△4	△45	－
その他の振替	△8	△17	－
売上原価合計	135	127	△6.3
人件費	229	333	45.4
研究開発費	84	77	△8.4
販売手数料	231	268	16.3
その他	165	190	15.1
販管費合計	710	869	22.5

- 人件費：FFRI North America, Inc. における採用を含め人員数が増加。
- 販売手数料：主に個人向け製品の販売に係る手数料。個人向け売上増加に伴い販売手数料も増加。
(個人向け売上に連動)

(注) 当社は、2017年4月3日に初めての連結子会社となるFFRI North America, Inc. を設立しております。このため、2017/3 3Qは単体の業績数値、2018/3 3Qは連結の業績数値を記載しております。

人員数の推移



業績サマリー（貸借対照表）

（単位：百万円）

区分	2017/3 (単体)	2018/3 3Q (連結)	増減比 (%)
流動資産	1,961	2,161	10.2
現金及び預金	1,754	2,000	14.0
売掛金	131	72	△44.7
固定資産	94	124	32.2
資産合計	2,055	2,285	11.2
流動負債	751	737	△1.9
前受収益	550	627	14.0
固定負債	423	480	13.4
長期前受収益	412	468	13.7
負債合計	1,174	1,217	3.6
株主資本	880	1,067	21.2
利益剰余金	343	520	51.8
純資産合計	880	1,068	21.3
負債純資産合計	2,055	2,285	11.2

（注）当社は、2017年4月3日に初めての連結子会社となるFFRI North America, Inc. を設立しております。
このため、2017/3は単体の業績数値、2018/3 3Qは連結の業績数値を記載しております。

今期の取組み

NGEPP (NEXT GENERATION ENDPOINT PROTECTION)

	NGEPP	従来型ウイルス対策
目的・機能	マルウェアからの感染や脆弱性攻撃からシステムを防御	マルウェアを検知して防御
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・未知の脅威を防ぐことが可能 ・攻撃を防御するため、被害が発生しない 	パターンファイルと一致した攻撃を100%防御可能
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・過検出が発生する可能性がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・パターンファイルがない攻撃は防御不可 ・パターンファイル増加によるシステムへの負荷が大きい

	EDR
目的・機能	インシデント発生後の事後対応
メリット	インシデント発生を早期に検知することで被害の拡大を食い止められる
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・マルウェア感染を防ぐものではない(被害は発生する) ・インシデント発生時の対応コスト

入口対策

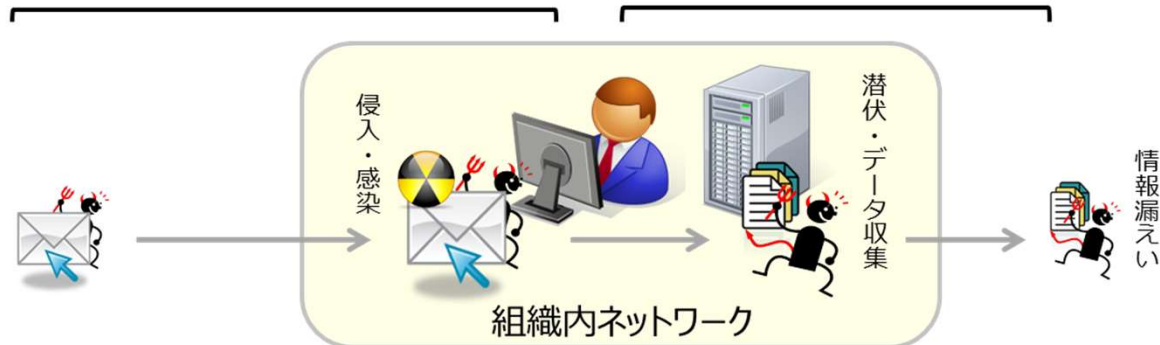
侵入防止・感染防御型

代表的な対策：FFRI yarai(NGEPP) ウィルス対策 FW等

出口対策

検知・状態分析、早期対応型

代表的な対策：EDR ゲートウェイ 監視サービス等



感染を未然に防ぐことの経済性を裏付ける研究結果

東京電機大学 未来科学部情報メディア学科 サイバーセキュリティ研究所 (教授/所長 佐々木良一氏)

「入口対策をしっかり行った方が、対策コストが少なくて済む」

http://www.jssm.net/wp/?page_id=2627
https://japan.zdnet.com/extra/security_vmware_201706/35103308/

入口対策

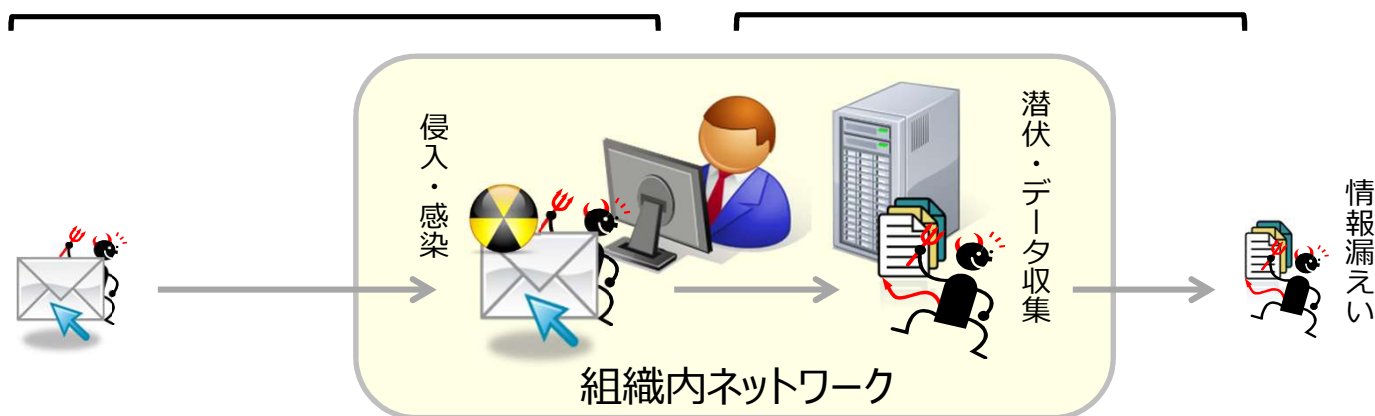
侵入防止・感染防御型

代表的な対策：FFRI yarai(NGEPP) ウイルス対策 FW等

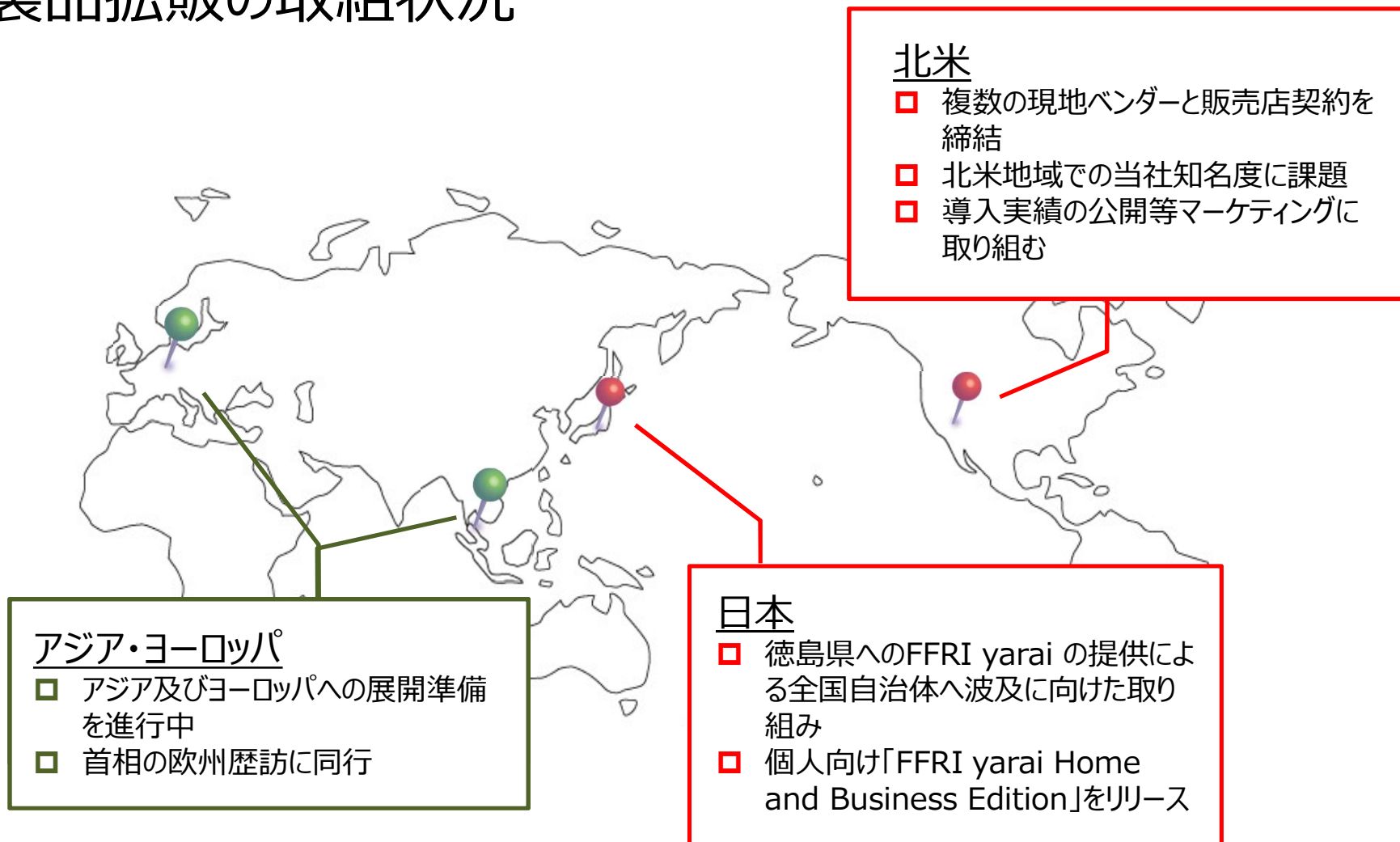
出口対策

検知・状態分析、早期対応型

代表的な対策：EDR ゲートウェイ 監視サービス等

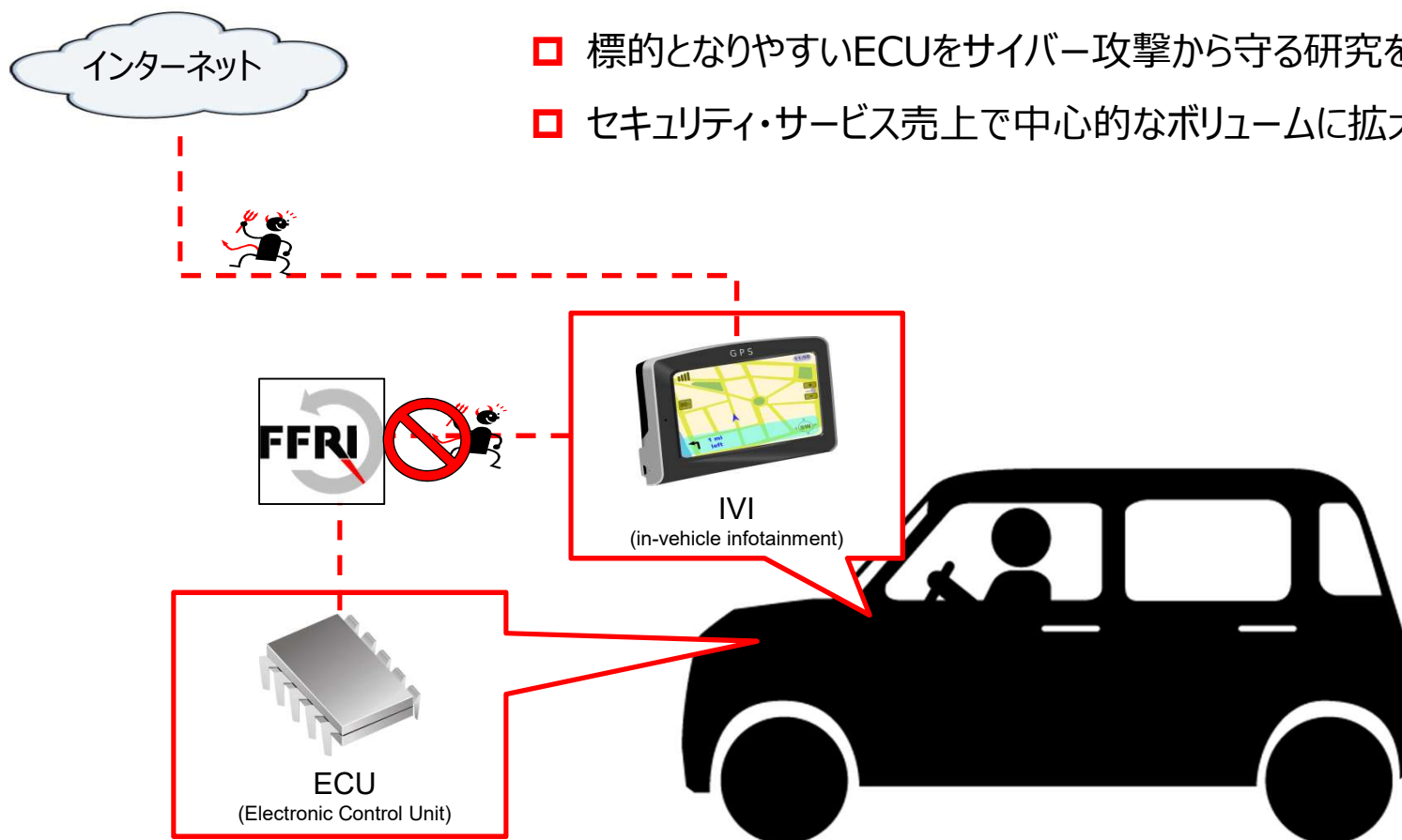


製品拡販の取組状況



車載セキュリティの取組状況

- 自動車向けセキュリティの基礎研究および車載機器向けの検査サービスを実施する中でノウハウを蓄積
- 標的となりやすいECUをサイバー攻撃から守る研究を進める
- セキュリティ・サービス売上で中心的なボリュームに拡大



業績予想

(単位：百万円)

区分	2017/3実績 (単体)	2018/3計画 (連結)	増減比 (%)
売上高	1,471	1,664	13.1
営業利益 (利益率：%)	257 (17.5)	283 (17.0)	10.1
経常利益 (利益率：%)	258 (17.6)	283 (17.0)	9.7
当期純利益 (利益率：%)	271 (18.5)	186 (11.2)	△31.4

- (注) 1. 当社は、2017年4月3日に初めての連結子会社となるFFRI North America, Inc. を設立しております。
このため、2017/3実績は単体の業績数値、2018/3計画（連結）は連結の業績数値を記載しております。
2. 当社グループは平成29年5月15日発表の平成30年3月期連結業績予想の修正をしております。詳細は平成30年2月13日発表の「業績予想の修正に関するお知らせ」を参照ください。

業績予想 (売上の内訳)

(単位：百万円)

区分			2017/3 実績 (単体)	2018/3 計画 (連結)	増減比 (%)
国内	法人	製品	873	1,036	18.7
		サービス	177	180	1.7
	個人		421	445	5.7
	小計		1,471	1,661	12.9
海外	法人	製品	—	2	—
合計			1,471	1,664	13.1

- (注) 1. 当社は、2017年4月3日に初めての連結子会社となるFFRI North America, Inc. を設立しております。このため、2017/3実績は単体の業績数値、2018/3計画（連結）は連結の業績数値を記載しております。
2. 2018/3より海外販売を開始したため区分を変更し、国内及び海外に分けて記載しております。
3. 当社グループは平成29年5月15日発表の平成30年3月期連結業績予想の修正をしております。詳細は平成30年2月13日発表の「業績予想の修正に関するお知らせ」を参照ください。

<本資料の取り扱いについて>

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述等は、現時点における情報に基づき判断したものであり、マクロ経済動向及び市場環境や弊社の関連する業界動向、その他内部・外部要因等により変動する可能性があります。

従いまして、実際の業績が本資料に記載されている将来の見通しに関する記述等と異なるリスクや不確実性がありますことを、予めご了承ください。